

馬場馬術競技第3課目 2006B解説

参考時間：約6分30秒 使用馬場：20m×60m

1. 尋常速歩での入場なので、活気良くのびのびと中央線を真直ぐに入っていきます。そして、X点上で馬は四肢を揃えて停止します。また、敬礼後は一步から尋常速歩で発進します。

ポイント：真直性・前進氣勢

2. C点を右側に膨らむことなく、直角回転をするようなつもりで左手前に回転します。そして、隅角（直径6mの1/4円弧）を深く通過するようにしながらH点よりF点に向かって、斜線上をリズムを乱さないように注意しながら、真直ぐにかつ活気良く大きな歩巾で中間速歩をします。

ポイント：歩巾の増大・弾発

3. A点を越えないように注意しながら、真直ぐに中央線を行進します。（この時C点を見ること）そしてX点より右へ直径10mの巻乗りをしますが、必ずB点を通過するようにします。

ポイント：整正・内方姿勢

4. X点より左へ直径10mの巻乗りをしますが、X点から中央線を直行進し過ぎないように注意します。X点では1馬身一瞬真直ぐにするだけで、絶えず輪線を行進します。そして必ずE点を通過してX点にしっかり戻るようにしながら、C点に向かって中央線を行進します。

ポイント：整正・姿勢変換

5. C点を左側に膨らむことなく右手前に回転しますが、基本的には2項目と同じです。

ポイント：歩巾の増大・弾発

6. 騎手の体がA点に来たら中間常歩へ移行するようにします。そして、F点からH点に向かって斜線上を蛇行することなく真直ぐにのびのび歩きます。その時、騎手は手綱を徐々に伸ばしながらも馬の口と軽いコンタクトを保って、馬の頭頸を前下方へ伸展させながら、ゆったりと大きな踏み込みを心がけます。そして再び中間常歩へ移行します。

ポイント：頭頸の前下方への伸展動作

- 馬の鼻先がC点に来たら右尋常駢歩発進の扶助を馬に与えます。そうするCの標識上で馬の駢歩態勢が現れます。

ポイント：一歩からの駢歩発進

- B点より右へ直径15mの輪乗りに入りますが、直径15mの大きさをよく感覚してください。(直径10mの場合はC点またはA点を目標にできるが、直径15mの場合は目標を定めづらいので普段の練習が大切です。)

ポイント：整正・内方姿勢

- K点から斜手前変換に入りますが、このK点から馬の姿勢を真直ぐにしてシンプルチェンジに備えます。シンプルチェンジをする場所は騎手の体がX点上に来た時に左駢歩発進をします。この時、あまり強く内方姿勢をとらずに斜線上を真直ぐに駢歩発進します。

ポイント：真直性・一歩からの中間常歩への移行

- 8項目と同じ

- 9項目と同じ

- P L間の直径10mの半円をしっかりと描くこと、L点からR点へ真直ぐに行進し、かつM点まで右駢歩を維持することが大切です。それによって余裕をもってM点で尋常速歩へ移行することができます。

ポイント：正しい図形と馬の体勢(駢歩バランス)

- 7項目での駢歩発進は中間常歩からでしたが、ここでは尋常速歩からの駢歩発進になります。C点を越えないように落ち着いて駢歩発進をします。

ポイント：一歩からの駢歩発進

- 12項目と同じ

- 13項目と同じ

- M点より腰が内に入ることなく馬体を真直ぐに保ちながら、馬体の縁かくとストライドの大きさを心がけます。

ポイント：真直性・透過性

17. A点を越えることなく、中央線を真直ぐに行進します。そして、X点前で半減脚扶助を少しずつ加えながら（大きく歩度を変えることなく）一歩で停止に入ります。

ポイント：真直性・全減脚扶助動作

終わりに

この第3課目 2006Bは第3課目ショートバージョン（20m×40m）を20m×60mの馬場で行えるようにした経路です。どちらも趣きのある経路です。ぜひ両方の経路を経験して下さい。今までの第3課目ロングバージョンに慣れた人達にとっては少し戸惑いもあるとは思いますが、第3課目 2006Aへのステップ課目としてご利用下さい。

特徴

第3課目 2006B：尋常歩度での騎乗

第3課目 2006A：収縮歩度での騎乗 プラス肩を内へ ターン・オン・ザ・ホンチズ

第4課目：収縮運動での騎乗 ハーフパス（速歩・駈歩）フライングチェンジ